松本えいしのお約束



田原市の豊かな財政を市民のみなさんのいのちと暮らしを守るために活かすため、全力をあげます。

- 家計応援へすべての市民への給付の制度を
  新城市では全市民に7，000円の給付が行われています。
- 行きたいへ送迎するデマンドタクシーの導入を
- 国民健康保険税の1人年5万円の引き下げ
  この5年間で1人4万円も増えた県への納付金引き下げを求めます。
- 農業後継者の育成へ、国や県とも連携した支援制度を
- 南海トラフ地震と津波から市民を守る防災対策の強化
  名古屋市港区のようにすべての小学校区に津波避難施設の設置を
- 毎議会後、赤羽根・渥美・田原地域で市政報告会を開催
- 渥美半島の貴重な戦争遺跡の保存、平和行政の推進

何としても共産党の議席を

河辺正男（元田原市議会議員）



市民自らの生命・くらしと権利を守り、改善していくことが市政の役割です。困難な時だからこそ、真実を語り、未来を切り開く力が必要です。「地域の声をまっすぐ議会に届け、誰も取り残さない社会をめざします」と決意を語る40歳、情熱と行動力ある松本えいしさんと一緒に市政を変えましょう。

市民の声が届く市政へ

長尾光枝（元渥美病院看護師）

若く誠実な、松本さんの決意を知り、久しく、心が踊りました。自然が美しい渥美半島を孫達に残したい、市民の声が届く市政にしたい。そんな想いです。

長かった日本共産党の田原市議会での議席の空白を今度こそ克服するため、皆でちからを合わせ、松本えいしさんを市政に送り出しましょう。

安心して住み続けられる田原市をあなたとともに



2期8年にわたって日本共産党の議員が不在の田原市では、家計サポートプレミアム商品券が PayPay アプリでしか利用できないなど、市民不在の施策が平然と行われています。

この間、田原市民のみなさんと対話する中で、「ぐるりんバスのバス停までいけない」「農業の後継者難は深刻。農業者の要望も聞き、抜本的な対策を」「渥美半島で県内初のオスプレイの訓練が行われた。平和の問題でもがんばって」など住民のみなさんから切実な願いが寄せられます。

この声に応え、市政に届けるために
全力をあげます。

日本共産党

松本えいし

e.matsumoto@jcp-aichi.jp

1985年11月25日生まれ、40歳。
豊橋市立幸小学校、高師台中学校、愛知県立時習館高校卒業。横浜国立大工学部中退。家族は妻と一人息子、猫2匹。趣味は読書と映画鑑賞。

田原民報
2026年号外　発行　日本共産党田原市委員会　田原市白谷町谷津 132-4
日本共産党の活動を紹介します。　TEL090-7310-6479

松本えいしが語る 私が政治の世界に飛び込んだわけ

“住民が主人公”の議員の姿に共感

――松本さんと日本共産党の出会いは？

松本：2024年の豊橋市長選挙とその後の豊橋新アリーナ建設をめぐる動きに関心を持ち、豊橋市議会の論戦を傍聴するようになったことが政治にかかわるきっかけでした。

市議会を傍聴するなかで、日本共産党の豊橋市議団や東三河地区の各議員と出会い、「住民が主人公（主権者）」の立場で奮闘している日本共産党の政治姿勢に強く共感したことが入党を決意するきっかけです。

どんな小さな願いでも届く市政に

――市議会議員にチャレンジしようと思ったのどうしてですか？

松本：少しでも多くの方々に政治の世界を知ってもらい、どんな小さな願いや要望でも行政や議会へと確実に届き、すぐにリアクションが返ってくるような好循環をつくりたいと思いました。

住民不在の自治体を変えたい

福岡県議会の不祥事をはじめ、いま日本全国各地で、自治体首長の不祥事や議会の機能不全と思われるような事件が発生しており、連日ニュースで報道されています。

住民不在と思われるような政策や巨大公共事業が問題となり、政治不信は進むばかり。政治不信は無関心となり、投票率は下がる一方です。

住民のくらしに直結する施策の実現へ

住民に一番身近であるべき基礎的自治体の行政・議会の実情は、国や県の意向に大きく左右され、一部の人の利益にしか繋がらないような経済政策や軍拡計画ばかりが進み、住民の暮らしの向上に直結するような政策は後回しにされています。

そんな旧態依然とした住民不在の政治を少しでも変えるため、少しでも行政・議会の”換気”を進めます！

これまで以上に住民のみなさんの陳情や請願に寄り添っていける存在になるために全力でがんばります。



松本えいしさんを市議会に　私も応援します

安間 慎　（越戸町・元高校教諭）
藤城美好（白谷町・元高校教職員）
鈴木武市（古田町・元郵便局員）
大羽康利（高松町・元高校教諭）
角谷利美（神戸町・元看護師）
福田享志（折立町・会社員）